

ふくしま 再生 短信

5/29 イネ試験栽培・菅野宗夫田圃田植報告



【左段写真上から】苗を囲む一同。東大溝口研究室の研究パートナー・米国デカゴン社シヨーンさん（左）と副社長・コリンさん。再生の会事務所大家さん・米穀商の中島さん。

【中央写真】早苗饗で飯館音頭を熱唱する菅野次男さん。

【右段写真上から】茨城大西脇研究室実験田。田植機を運転する田尾さん。応援に駆けつけた金一さん。

♪飯館よいところお～♪



早苗饗「さなぶり」と読む。さのぼり（早上り）の転。田植を終えた祝い。（『広辞苑』6版より）今年の会場では大型テントも設営された（上の写真）。

2016年5月29日朝9時前から、飯館村佐須地区菅野宗夫さんの田圃で田植作業が始まった。認定NPO法人ふくしま再生の会（田尾陽一理事長、本部事務所・東京阿佐ヶ谷）が2012年以来「飯館村再生モデル事業」の一環として推進してきたイネ試験栽培が5年目を迎えた。前々日、あるいは前日から霊山センターに宿泊して準備を進めてきた会の仲間に加えて当日参加の人びとを加えて、総勢70人で田植が行われた。

田植は機械（田植機）と人間の共同作業だ。田植えの一部は、人間と自然との共生を体感するために、再生の会では手作業により全員参加で実施してきた。前日、「よみがえるオオカミ・飯館村山津見神社復元天井絵展（5/28～7/3、福島県立美術館）」開会式テ

ープカットに参加した、和歌山大の加藤久美さんとサイモン・ワーンさんも飛び入り参加し共々田圃に入った。午後1時、作業は無事終了し、宗夫ハウス前に設営された早苗饗会場へ全員が移動した。山津見神社氏子総代・菅野永徳さんは夫人同伴で「地域を守ることの大切さ」を祝辞で述べた（右の写真）。菅野宗夫家のおじいちゃん（次男さん）恒例の飯館音頭熱唱で宴の高揚は最高度に達した。



宗夫さんは「失なわれたものは多いけれど、かならず新しいものを発見できる場を創りたい」と帰村に向けた決意を表明（左の写真）。午後2時半、参加した人びとはそれぞれの希望を胸に家路についた。（文責&撮影・若林一平）

ふくしま 再生 短信

よみがえるオオカミ 飯館村山津見神社 復元天井絵展開幕



山津見神社復元天井絵展の開幕を告げる福島県立美術館（上の写真）

❖ 村民を待つ天井絵 ❖

2016年5月28日、福島県立美術館で「よみがえるオオカミー飯館村山津見神社・復元天井絵」展が開幕。福島県立美術館主催、山津見神社／和歌山大学観光学部・国際観光学研究センター／東京藝術大学／認定NPO法人ふくしま再生の会共催、飯館村後援により拝殿設置前の天井絵公開が実現した。9時30分、福島県立美術



館館長・早川博明さん、和歌山大学観光学部教授・加藤久美さんの挨拶の後共催者らによるテープカットが行われた（左の写真：右端は再生の会事務局長・二宮克彦さん）。3年前に焼失した237枚に新た

に5枚を加えた242枚のオオカミ天井絵が、和歌山大の加藤久美さんとサイモン・ワーンさん（右の写真の右側の2人、その左は学芸員・増淵鏡子さん）によるデジタル調査記録をもとに東京藝



術大学准教授・荒井経さん（右の写真）のチームの手により蘇った。加藤さん「宮司夫人の遺志は重い、天井絵は村民を待つ」、ワーンさん「歴史は共同し行動して創るもの」、荒井さん「天井絵の修復は原発事故を含め歴史を刻む」。



飯館村佐須地区の菅野芳子さんは「これまで気づかなかった」新しい発見の驚きを語った。山津見神社氏子総代・佐藤公一さんは「オオカミの恵みとご利益の姿を村外で見られる」意義が大きいと言う。実際に筆をとった藝大院生の谷津有紀さんは「創作行為としての復元を100年後に今の戒めとしても伝えたい」と言う。副村長の門馬伸市さんは「村の子ども達をスクールバスで連れてきたい、心の復興に文化財の力が大きい、展示を復興の起爆剤に」と期待を述べた。会期は7月3日迄。（文責&撮影・若林一平）



福島県立美術館

1984年7月開館。所在地：〒960-8003
福島市森合字西養山1番地 福島交通

飯坂線「美術館図書館前駅」下車（徒歩2分）Tel.024-531-5511 入館料：一般・大学生270円、高校生以下無料。館長は早川博明さん（右の写真：左、その右は山津見神社氏子総代・菅野永徳さん）。早川さん「古いものから新しい文化を創造した」。

ふくしま 再生 短信

比曾地区菅野啓一邸居久根除染プロジェクト探訪

✧ 居久根よ 永遠に ✧

2016年7月2日・3日の両日、記者は飯館村比曾地区の菅野啓一邸を訪ねた。居久根除染プロジェクトの成果を取材し、あわせて両日実施される実験小屋撤去作業に参加するためである。折しも啓一さんは重機を駆使して帰村に向けての自宅周辺の整地など環境整備作業に余念がなかった。

いみじくも「居久根は農家の退職金」と言ったのは啓一さんである。居久根は代々受け継がれていく農家の守り神である。

今回の居久根の除染は啓一さんとふくしま再生の会の協働作業として6月22日～6月26日の5日間にわたって集中的に行われた。小原壮二チームリーダーのものとべ32人日のメンバーが参加、屋内測定器

設置に
始まり
居久根

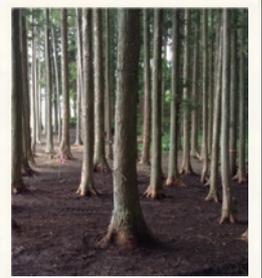
除染と一連の測定作業を実施。作業機械を使う作業は専ら啓一さんが担い（写真左）手作業部分を参



裏庭からプロジェクトを終えた居久根を望む

加者が実施した。ちなみにイグネの土壌調査などの準備は2015年11月にスタートし継続してきた。枝

打ちを
終え丁
寧に汚
染土を



撤去した後の木々の姿は1本1本が大切な宝そのものである（写真上）。

居久根は「屋敷林」とも言われ、屋敷の周辺に植えられた樹木で福島・岩手・宮城・山形などの地域特有の呼称である。冬暖かく夏涼しい快適な環境をつくり建築材料として貴重な資産でもある。居久根は環境省の除染対象として想定されていない。

ハウスの花作りで世界からの集客を目指す啓一さんは、「都会の人たちに思い思いの花作りができる場を提供

したい、宿泊できる地域おこしの場も創りたい」と帰村に向けての夢を語る。

（文責&撮影・若林一平）

実験小屋

菅野啓一さん宅の居久根を望む裏庭で2015年11月7日再生の会の第二次実験小屋基礎工事が行われ（短信10号）当月中には測定を開始した。小屋の解体が完

了した2016年7月3日まで7ヶ月強フルに測定が続いた。解体作業は杉板壁4層（4面で16枚の壁）とその中に埋めた土壁3



層（4面で12枚の土壁）を順に剥がす形で進んだ（写真左）。土壁の掻き出しは手作業である（写真中）。壁の解体を終え啓一さんを囲んで記念の1枚（写真右）。

ふくしま 再生 短信

7/14 フェリス女学院大学生企画 VOL.6 訪問
福島再生おしゃべりカフェ@横浜 ～ふくしまの想いを包もう！餃子編～

【背景写真】焼きあがった餃子たち



【写真左上から】
餃子づくり(1)。餃子づくり(2)。焼き上がった餃子に舌鼓。
【中央写真】想いを包むそのとき。

【写真右上から】
フェリス女学院大
高雄ゼミスタディーツアー報告。東大院
生の発表。カフェの感想の共有。

✧ 再生のレシピ ✧



フェリス女学院大学

1965年設立、本部は横浜市泉区緑園4-5-3（緑園キャンパス）。同地に文学部と国際交流学部、横浜市中区山手町の横浜キャンパスに音楽学部がある。「For Others」という教育理念を掲げている。【写真】カフェが開催された食堂棟（右の建物）

2016年7月14日午後5時、フェリス女学院大学緑園キャンパスに国際交流学部准教授・高雄綾子さん【写真：右】を訪ねた。高雄さんが指導にあっている「ふくしま再生おしゃべりカフェ」に参加し取材するためである。このカフェは「飯館村のスタディーツアーを通じて、日本や世界の環境問題を足もとから考える、フェリス女学院大学学生有志のグループ (facebook:@fukushima.ferris.cafe)」により既に5回開催されており今回は第6回目、飯館村の菅野宗夫農園のクリーンハウスで栽培された青梗菜（チンゲンサイ）を使って福島名物「円盤餃



子」を参加者が作り試食し感想を述べ合う企画である。

餃子づくりはA～D4チームに分かれ、それぞれ春菊・トマト・ミョウガ・パクチーを具として加えて一人ひとりの「想い」を包んだ。焼き上がった餃子の試食の前後、フェリス大生の「飯館村スタディーツアー」の報告、東大から参加した院生たちが飯館村で進めているプロジェクトの紹介が行われた。最後に福島県と飯館村のイメージのトーク、餃子の感想

共有の場が持たれ、お礼とまとめのスピーチで高雄さんは「このカフェは新しいネットワークの形を提案している」と結んだ。【左：全員で記念の一枚】（文責&撮影・若林一平）



ふくしま 再生 短信

10/23東京「活動開始から五年ふくしま再生の会活動報告会」開催します

※五年そしてこれから※

- 2016年10月23日(日)
- 14時~15時:再生の会定期総会
- 参加費1,000円
- 場所:東京大学弥生講堂アネックス
イホクギャラリー(東大農学部内)
- 15時~18時:<5年活動報告会>
- 主催:認定NPO法人ふくしま再生の会
- 18時半~20時:懇親会
- 共催:東京大学農学生命科学研究科
グリコクーン農における放射線影響FG

8/19福島「2011-2016放射線測定報告・検討会」開催しました



【写真】報告・検討会(左・中央)と懇親会会場(右)スナップ



飯館村の放射線測定には村の委託事業と再生の会独自の取り組みがある。上のスライドは2015年3月再生の会の小原壮二さんが徒歩により独自に測定した松塚地区の農地の詳細線量マップ。

2016年8月19日午後4時から福島県庁南再エネビル内で、認定NPO法人ふくしま再生の会(田尾陽一理事長、本部事務所・東京阿佐ヶ谷)主催「放射線測定報告・検討会」が開催された。この日、5年間実際に放射線測定の協働作業を担ってきた村民測定員のみなさん、各地区の再生に取り組んできた区長さん、来春の帰村に向けて奮闘の最中の村民と村役場の方々、格別の応援をいただいた各界のみなさん、そして再生の会メンバーら80余名が参加した。

はじめに田尾さんから2011年以來の測定事業をまとめる形で「飯館村の放射線<5年間の変化>」と題して報告が行われた。線量の現状の概要、5年間の推移、除染結

果の実例、再生の会が独自に実施した「住宅測定」の紹介、などの報告に続いて帰村に向けて「個人線量」の理解と測定の大切さを訴えた。菅野宗夫さんは「この5年間村の人と一緒に考え活動してきたことに大きな意味がある」と述べた。村役場復興対策課長の中川喜昭さんは「村をくまなく車で走りながら測ることを再生の会にお願いしてきた。長期的に見てデータが第三者のところに残ることが大切なのは」と語る。

とある会合で「暴走老人」の勇名を馳せた山田猛史さんの乾杯の発声とこの日も会場に駆けつけた前福島県知事の佐藤栄佐久さんの励ましのエールから一同限りない元気をいただいた。(文責&撮影・若林一平)